

**気軽に話しかけられる存在に**

（株）福邦銀行に入行して3年目となる松尾さんは、現在、窓口業務を担当しています。「大学時代に、すごく地元に戻りたくなくて、Uターンを決めた。昔から、地元の人と行事などとの話をするのが好きだったんです」。今の職場を選んだきっかけについては、「当行の地域密着という理念が魅力的だったことに加えて、就職活動の中で出会った人事担当者が、すごく明るくて元気な女性で、私もこの一員になりたい、と強く思ったんです」と、話します。現在、家庭を持ちなが



勤務先 (株) 福邦銀行  
まつお 松尾ひとみさん  
(25歳・水取一丁目)

ら管理職を務めているその先輩は、今も彼女の目標とする人物だそうです。仕事のやりがいについて、「窓口でまた顔を見にくるわ、なごお客様に気軽に言っていただけ時は、地域の人と仲良くなれているのかな、といううれしさを感じましたね」と、接客業ならではのエピソードを語ります。今後の目標については、「いろいろな人から『福邦の松尾さん』と呼ばれて、道で会っても気軽に話しかけられるような存在になりたいですね」と、笑顔で話してくれました。

応援されるチームを目指して

小浜中学校野球部でキャプテンを務める小原くん。先に野球を始めていた兄に憧れて、小学校3年生のときに地元の少年野球に入団。中学校では、チームのシヨートを守ります。「打って、走って、守って。野球の全部が好きです」と、笑顔を見せます。先輩が引退した後、8月にキャプテンに抜擢。最初は驚いたそうですが、友だちが副キャプテンとして支えてくれるため、「心強く、がんばろうと思った」と話します。2年生14人、1年生9人の新チームを引っ張ります。



野球部 キャプテン  
おはら さんしろう 小原三四郎くん  
(小浜中学校2年生)

平日の放課後と土曜日の午前中は野球の練習に汗を流し、日曜日はテレビ番組で外国の風景を見て息抜き。将来は、色々な国を旅行して世界遺産を見て回りたいと目を輝かせます。憧れは、阪神タイガースの関本選手。「存在感がすごい。ほくも走塁や守備を磨いて、もっとうまくなりたい」と、話します。これからの目標を尋ねると、「あいさつや返事という基本がしっかりできて、みんなに応援されるチームを目指しています」と、力強い答えが返ってきました。



アトリエにじのわ  
くりもと たいすけ 栗本泰佑さん  
(36歳・門前)

きらり！小浜人

地域の人が集まる場所として

旧小学校を活用した工房から、木を削る機械の音が山間にこだまします。家具職人の栗本泰佑さんです。大阪でのサラリーマン生活から一念発起して、家具職人に転身。平成26年4月に両親の出身地であった小浜に夫婦で移住、栗本家具工房を開きます。理由を聞くと、「営業の仕事がずっとしていましたが、自分が作り手になりたいという思いが強くなったんです。家具や小物など、国産材を使った地産地消のものづくりをしています」と、笑顔で話してくれました。

同年8月には、旧小学校であるこの場所を地域の人が集まる場所として再生させたい」という思いから、夫婦で『アトリエにじのわ』を立ち上げ。各団体と連携しながら、手づくり市や映画の上映会、音楽ライブなどを定期的に開催しています。小浜の豊かな水や空気の中で、自然とつながり人間らしく生きていることを実感しているという栗本さん。「妥協をせず、こうしたいと思った自分の心に正直に歩んでいきたいです」と、意気込みを話してくれました。

燃えろ！青春！部活道

夏のコンクールで金賞を

部員数43人と大所帯の小浜第二中学校ブラスバンド部で部長を務めるのは、2年生の芝田さん。楽器は、部内でただ一人のコントラバスを担当しています。「みんなができない楽器を演奏できるようにすれば」との思いで担当楽器を選ぶと、現在まで、先輩に教わったり、演奏動画をスローモーションで見たり研究したりと、日々上達するために励んでいます。部の活動は週に5日。コンクールが無い時期は、地域のイベントなどで演奏する曲の練習を行っています。



ブラスバンド部 部長  
しばた ふみか 芝田郁香さん  
(小浜第二中学校2年生)

「新チームになってからまだ日が浅いので、部のまとまりを強くすることが今の課題です」と、話す芝田さん。今の立場になって、改めて前部長のすこさを実感しているそうです。「前部長は、新チームになってすぐに、部をしっかりまとめて、それからも常に、良い緊張感に包まれた活動ができていました」。今後の目標については、「前部長のようになりたいですね。夏のコンクールで金賞を取ることです」と、元気よく話してくれました。

## 若狭姫神社

「若狭おばま」を紹介するときに思い浮かぶ場所の一つが若狭姫神社・彦神社の若狭一の宮です。

若狭姫神社の祭神は、豊玉姫命（とよたまひめのみこと：乙姫）。海上安全、海幸大漁の守護神として信仰されています。

若狭姫神社の境内に入ると、予想以上に明るく、観光客が奥にそびえる千年杉のてっぺんを見上げる姿をよく見かけます。境内のあちこちにお参りする方へ向けた説明文があり、若狭姫神社で若狭彦神社と2社分の御朱印をいただけます。

若狭姫神社・若狭彦神社の両社は、縁結びのパワースポットとして有名です。早朝にお参りするとさらに効果があるらしいです。



【問い合わせ】  
 若狭姫神社 ☎ 56・1116

【アクセス】  
 小浜市遠敷 65-41  
 JR 東小浜駅から徒歩 15 分  
 舞鶴若狭自動車道小浜 IC から車で 7 分  
 (文と写真: 地域おこし協力隊 アイザワ)

## イチ押し! トップアスリート

### 卒業後も小浜で投げ続けたい

昨年8月の県民スポーツ祭、ソフトボール男子の小浜代表チームは、7年振りの勝利を挙げます。歓喜の輪の中に、ピッチャーの山口直樹さんの姿がありました。

現在、県立大学4年生の山口さんは、広島県出身。高校までは野球部で野手をやり、大学入学後は、先輩の勧誘でソフトボール部に入部。ポジションもピッチャーに転向します。「実業団で活躍する選手の動画を繰り返し見ること、独学で技術を磨いてきました」と、話します。

「部活を引退した3年生のときに、

知人からソフトボール協会の理事長を紹介してもらい、現在のチームに入団しました」と振り返る山口さん。競技の魅力を、「ピンチを乗り越え、点を取ったときに、チームのみんなと喜び合えること」と、語ります。

「地域のチームに入ったおかげで、本当に多くの人と仲良くなれました。大学卒業後は、小浜で就職して、定住したいです」と、笑顔で話す山口さん。チームの市長杯争奪大会優勝を目標に、今日もマウンドに立ち続けます。



小浜市ソフトボール協会 寿スラッガーズ所属  
 やまぐち なおき  
**山口直樹さん**  
 (21歳・水取四丁目)

## 健康長寿のススメ

### 加齢による物忘れ

記憶の流れ

一部を忘れる

- 【例】
- ・ 食事の献立が思い出せない
  - ・ 外出先で人と会ったことを忘れるなど

### 認知症

記憶の流れ

全体を忘れる

- 【例】
- ・ 食事をしたこと自体を忘れる
  - ・ 外出したこと自体を忘れるなど

● 次回のテーマ  
 「認知症の予防法」

■ 問い合わせ 地域包括支援センター ☎ 64・6015

## 知って安心 認知症①

「認知症」?  
 それとも「物忘れ」?

現在、65歳以上の4人に1人は認知症またはその予備軍と推計されています。3人に1人が高齢者となった小浜でも、誰もが身近なところで認知症に関わる可能性があります。

- 認知症の大切なポイントは、
- ① 早く気付くこと
  - ② 予防につとめること
  - ③ 認知症になっても安心して暮らせるようにみんなが協力しあうこと

今回お伝えする内容は、「①早く気付くこと」。早期発見のためにチェックしてみてください。

### ◆ 認知症のサイン (例) ◆

- 慣れた道でも迷うことがある
- 好きだったことや趣味などへの興味や関心がなくなった
- 物の置き忘れがしばしばあつて困る
- 最近の出来事を思い出せないことがよくある
- 以前より怒りっぽくなったなど性格が変わったと感じる(またはそう言われる)
- 周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあると言われる

☆いくつかチェックがつく場合は、かかりつけ医または地域包括支援センターに相談してください

※認知症のサイン(例)は、小浜市「健康チェックリスト」より抜粋

## アート&カルチャー

### 書けた、という充実感を

青黄社は、70代から80代の男女6人で構成される書道の団体で、元々は、関西の「書境社」という団体に所属していた小浜のメンバーが集まって、20年以上前に結成されました。今はそれぞれ、展示会への出品や、書道教室の主催などの活動を行っています。

会員のひとりである奥城さんも、現在、子ども向けの書道教室を主催しています。教室には地元の小中学生数人が通って、日々腕を磨いています。指導の際に気をつけていることについて、「書けた、という充実感を感じ



上 / 前列中央が奥城さん 下 / 教室の様子 (9月28日/月・雲浜一丁目)



せいこうしゃ 青黄社(書道)  
 おくしろ ふみよ代 さん  
 (79歳・雲浜一丁目)

てもらうことを大切にしています。そのため、簡単にマルをあげることはありません」と、答えてくれました。すでに書かれた字を直すより、書いている最中に指摘することが大事、という奥城さんの信念から、教室の間は生徒たちの書く様子を常に見て回り、指導を行っています。今後の目標については、「子どもの持っている力を十分に出してあげること、書道をしていて良かった、と後から思ってもらえるようにしたいです」と、力強く話してくれました。